

第 1 回地域経済産業分科会における指摘事項

平成 18 年 11 月 10 日

1. 地域の実情は一律ではない

- 地域の強み（「地域力」）を活かした取組が必要。
- 「特色ある、価値ある産業」を担う人材、各地域における地道なものづくり人材の育成が重要。
- 地域に密着した産業という視点から、製造業のみならず、サービス業にも比重をおくべき。
- グローバル化とローカリゼーションの双方をにらみながら、日本のこれからの方向性を決めるような議論（グローバルな視点）が重要。
- 働く人以外の観点、生活環境全般の問題も大切。

2. グランドデザインの明確化・広域連携

- 地元自治体による将来のグランドデザインの明確化が重要。
- 「地域力」をつけるためのシナリオを、各地域がどれほど持てるかに自治体の存続がかかっている。
- グランドデザイン、人材育成、広域連携が非常に今後の地域発展のために重要。

3. 意欲のある地域を支える政策

- 我が地域はこれでいくんだというような創意工夫があって、それを政策的にどう支えていくのかというところがポイント。